

風土記の丘の花だより³⁰⁸

今、そしてこれから見られる植物(2026年2月14日)

前の日曜日、和歌山でも珍しく雪が降りました。そして、つかの間でしたが雪が積もりました。北国の人には申し訳ないですが、幾つになっても雪は嬉しいものです。さて、花だよりですが、いよいよ紹介できる花がなくなりました。それで今回は葉の落ちた痕跡「葉痕・ようこん」と春を待つ「冬芽・ふゆめ」の紹介にしました。どんなものか、ご覧ください。



これはカラスザンショウの葉痕です。まるで人の顔ですね。目や口に見えるのは、維管束痕といって、木に養分や水分などを送る管の断面です。木は寒くなると、ここを閉じて葉を落とします。カラスザンショウの葉は複葉で、一枚が大きいので、葉痕も大きいです。頭の上にチョコンののっているのは冬芽です。カラスザンショウは普通のサンショウよりもずっと大きくなる木で、幹や枝には刺がいっぱいです。暖かい地方のおもに海岸に近い所に生えますが、風土記の丘でもたくさん見られます。これは万葉植物園で撮りました。



続いて二枚目はサンゴジュの葉痕です。これも可愛い顔に見えますね。サンゴジュは常緑樹ですが、もちろん葉を落とします。ですから、葉が落ちた枝を探す必要があります。カラスザンショウと違いこの木は単葉なので、葉痕は小さいです。サンゴジュの葉痕は横長で扁平なものから、円いものまで、いろいろな形が見られて、それぞれの顔を見比べるのも楽しいです。これは旧谷山家住宅の庭で撮りましたが、園路沿いにも植えられています。次は冬芽を紹介しましょう。



これはタブノキの冬芽です。とてもきれいな赤紫色というか、ピンク色というか、とにかくよく目立つ冬芽です。大きさは1センチほどです。魚の鱗のような物で覆われているので、こんな冬芽を「鱗芽・りんが」といいます。タブノキはクスノキ科の木で、園内にもたくさん生えています。花は咲きますが、それほど目立ちませんので、冬にこの芽を見つけたらタブノキと思ってください。多くの木では、花芽と葉芽がありますが、タブノキはこの冬芽のなかに、花と葉になる元が一緒に入っていて、「混芽・こんが」と言われます。



4枚目はまた葉痕にします。でも、これは顔というには少し無理がありますね。クサギの葉痕ですが、みなさんは何に見えますか？形はヤギか何か、動物の足跡みたいですが、やっぱり、大きな口の顔に見えてしまうのでしょうか。このように、小さな葉痕や冬芽を観察することは、殺風景な季節ならではの、野外での楽しみの一つです。まだまだ寒いですが、お友達と「何に見えるごっこ」を楽しみませんか？ 松下